

(別紙の2)

自己評価及び外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	スタッフルームに掲示し、全体会議やスタッフ会議で、サンシャイン憲章・行動指針を共有している。個人の尊厳を大切に、生きる事のお手伝いを支援する事を心掛け、実践に繋げている。	理念・行動指針の実践状況について、意識して取り組まれていることを職員インタビューでお聞きしました。「活動的な生活を大切に、安全第一、見守りを最優先で意識しています。」「報告・連絡・相談そして確認を意識してチームで共有しています。」等実践で取り組んでいる様子を伺いました。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	ボランティアの方が畑作業などに来てくれたが、地域の高齢化に加えコロナ禍で交流は難しく、区長を通じて施設の便りを地域に届けている状況である。コロナが収まり交流できるになれば交流を再開したいと考えている。	コロナ禍の3年間で以前のように活発な地域交流が出来ていない様子です。次年度に向けて地域のサークル活動の訪問や、利用者と一緒に畑作り等に参加してもらえ、ボランティアの募集を地域へ声掛けしていきたいと管理者から伺いました。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	同一敷地内のショートステイ・デイサービス施設とともに、災害時の要支援者受け入れ等を行う。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、その意見をサービス向上に活かしている。	区長・民生児童委員・消防・行政など地域の多くの方に委員になって頂き、協力関係を築けている。近況報告や意見交換などを通じ、施設での集団ワクチン接種にも協力して頂いている。	会議は敷地の中庭にある別館多目的ホールを活用して、コロナ禍でも継続して奇数月に開催されています。昨年の参加人数は延べ50名で、利用者の生活状況・ヒヤリハットや事故報告・行事報告・意見交換等、充実した会議内容を議事録で確認しました。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	担当者とは日頃から連絡を取り、相談や情報交換に努め、地域密着型サービスの取り組みや、医師や保健師との連携による感染症対策などへの、協力関係を築ける様に取り組んでいる。	昨年度の実績から、防災訓練の参加協力、各地域での行事や催し物の情報提供・参加時の支援等、依頼していますがコロナ禍のため実行できません。運営推進会議での意見交換や困難事例等を地域包括支援センターへ相談し繋がっています。(管理者コメント)	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束廃止委員会や営業会議で実態報告をし、全体会議等で周知徹底するように心掛けている。行動制限や禁止する言葉にも注意を払う様にしている。転倒防止のセンサーマットを使用する際は、家族に相談し理解を頂いている。	現在、身体拘束の該当者はいません。全体会議で身体拘束委員会からの報告を行い、職員へ周知徹底しています。行動制限や、禁止する言葉も身体拘束に当たる事を周知し、職員が互いに注意しながら気を付けています。センサーマットを使用する際は、家族に相談・説明し、同意を得ています。	身体拘束廃止委員会を含め、来年4月より法定研修の義務化が多くなります。年間の研修計画と開催記録、研修内容、委員会活動計画と実施、また各委員会へ職員が参画する等、充実した取り組みを更に期待いたします。

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	ユニット会議、全体職員会で話し合い、職員が意識しながら支援している。言葉による虐待にも注意を促している。また、内出血に対しても報告書を提出し、情報の共有に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	利用者様の中で成年後見制度を活用されている方もいます。職員も少しずつ理解してきているので、引き続き理解を深める事が出来るよう努力している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	利用者や家族にはマニュアルで説明を行い、理解納得を図っている。利用者家族の考えを聞いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	コロナ禍の中であっても家族・知り合いとビデオ通話できる様にしている。グループホーム便りを二ヶ月に一回届け、本人の誕生日には手紙と生活の様子が分かる一年間の写真を届けている。	コロナ禍でなかなか面会が出来ない事に対して家族から要望があり、対応としてビデオ通話や毎月のグループホーム便りの発行を実施しました。受診外出のため家族が事業所に来られる時は、医療情報をお伝えしながら、要望や意見等の話をお聞きする大切な機会と捉えています。	家族より面会時間を長くしてほしいとの要望が聞かれています。今後、感染状況をみながら検討されることを望みます。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	全体会議、ユニット会議、ミーティングなどの場で、職員の意見を聞く機会を設け、声を拾う様に努め、運営に反映するようにしている。	職員ヒアリングにて、「職員同士意見を言える良い関係ができています。」とお聞きました。ユニット会議、全体会議の他、個別に上司と話す機会もあります。今年度、職員の意見として手当等の見直しについて要望し、改善に向けて検討されています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	通勤手当の見直し及び夜勤手当の増額の要望が通り、希望が叶いつつある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	施設外の研修に参加し、その勉強会を行っていたが、コロナ禍で機会が減っている。他施設での研修は自施設とのタイミングが合わず、行われなかった。感染症の心配が無くなった時に、研修を行うとの返事をもらっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	木曾介護保険事業者連絡協議会に参加し、事業者間の交流・研修・情報交換に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	事前に面談を行い、思いや要望等を聞いた上で、安心していただける様な関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	事前に面談を行い、要望等を聞いたり施設を見学したりして、環境を見て頂き、安心して頂ける様な関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	人生の先輩として、本人と協同し関係を築いている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	御家族と相談しながら連携し、本人を支えていく関係を築くよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	御家族と相談しながら連携し、本人を支えていく関係を築くよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	コロナ禍においても知人や家族との電話やビデオ通話など、橋渡しをするなど関係が途切れないよう支援する事を心掛けている。利用者様同士は馴染みの話をしたり、お互いに助け合いながら繋がっている。職員は日常生活における利用者様同士の会話等から繋がりを保つ様に努めている。	コロナ禍により、まだ外出制限される部分は多いですが、ビデオ通話は馴染みの関係をつなぐ手段の一つとして活用されています。日常生活では、馴染みの利用者同士の席を隣にする等、関わりが継続できるように配慮しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者同士の関係を把握した上で、お互いが支え合ったり助け合ったり出来る様、支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退所後でも相談等支援していく事を伝えている。他施設へ移られた方の訪問を考えている。		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人と職員がゆっくり話す時間の中で、今までの暮らしや思いなどを把握し、希望や意向の情報を得ている。	日々の生活の中で、利用者と職員がゆっくり話す時間を作るように意識し、意向の把握に努めています(食事メニュー、洋服の好み等、要望に沿った支援ができました)。意思表示が困難な利用者には、家族に聴いたり日々の表情や動作からくみ取ったり、確認しながら判断しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ミーティングや日々の生活の中で把握し、本人と家族からも情報を得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	ミーティングや日々の生活の中で把握し、本人と家族からも情報を得ている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	本人や御家族の思いを聞きながら、全職員で介護計画の共有を図り、支援内容に反映している。ご本人の表情・行動を意識して記録・モニタリングする事により、介護計画やケアに繋げていく様にしている。	看護師が在籍し献立表の作成も担当しています。心身状況や食事状況等について、また医師との情報連絡等、多職種の視点を入れ介護計画に反映しています。全職員が利用者との日常的な関わりの中での情報収集に心がけ、個人ファイルへ記録し介護計画へ反映しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別記録、連絡記録を職員間で共有・周知し、活かせる様に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	一人ひとりの希望に応じ、外泊や外出の希望に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域のイベント、納涼祭等には地域住民の支援をいただき、参加して楽しんできた。職員も楽しんでいる。地域の運動会に参加してきたが、今はコロナ禍により途絶えている。		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	主治医は本人・御家族の希望を尊重している。御家族が受診できない場合は職員が付き添い、受診後に御家族に報告して情報共有に努めている。状態変化がある時は主治医・御家族に相談し、対応を決めるなど適切な医療を受けられるように支援している。	在宅時の継続で、かかりつけ医を希望される家族・利用者が多く、受診は家族と関わる貴重な時間、馴染みの医師に会える良い機会になっています。家族の対応が難しい時や緊急時など、事業所で対応を行い結果を家族に連絡しています。受診後の情報を個人ケースに記録し、職員間で共有しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	職場内の看護職に伝え、主治医の指示や受診を受けられるよう支援している。又、介護の方法について看護師と相談・連携をして、利用者への気づきができる様にしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院のケースワーカーからの情報を頂き、利用者の様子を職員で共有し、医師と退院のタイミングを図る。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	利用申し込み、入所契約時に本人や御家族と話し合い、事業所が出来ることを説明し、本人・御家族・主治医と、その都度相談し、連携に努めている。緊急時には御家族・主治医の指示で救急対応している。	入居時と介護度3になられた時に、本人と家族に面談し、意向を確認して方針の共有をしています。地理的な条件や医療の困難なケースもあるため①終末期の対応②重度化した場合の指針③緊急時の対応に関する同意書について、丁寧に説明をし、利用者の安心安全な生活環境について話し合いを行っています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	全職員が実践力を身につけるため研修を実施している。また介護の経験が浅い職員には、個人的に指導している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	防災訓練を、消防署や地域住民の協力で年間2回実施している。グループホーム主催時は、職員が少ない時間帯を想定した訓練を実施するように努めている。	コロナ禍のため地域住民等の参加はできませんが、消防署の指導のもと訓練計画に従って、地震や木曾川の水位の上昇等を想定に入れた避難訓練を行っています。現在BCP(業務継続計画)の作成に取り組んでいます。	

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	全体職員会でサンシャイン憲章・行動指針を唱和し、個人の尊厳を大切に、プライバシー保護の徹底に努めている。出来ることを手助けする姿勢を大切に、介助の仕方や声掛けなどについて話し合い、お互い注意しあえる環境作りを心掛けている。	「利用者と一緒にゆったり過ごす場面が毎日ある」と事業所評価が付けられています。利用者に関わる時間を積極的につくり、その際もなれなれしい態度や言葉、またプライバシーを侵害しないよう、職員がお互いに注意し合い、意見も言い合える職場環境を、組織風土として大事にしています。(職員ヒアリング)	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	できる限り自己決定できる様に支援している。家族への電話や散歩は、本人の希望にそって支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	基本的な流れは出来ているが個別ケアを心がけて支援している。利用者への声かけを大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	一緒に用意できる様に常日頃心がけている。必要品の申し出があると職員が買物に行ったり、買い物同行支援を行ったりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	季節の郷土料理やひな祭りのちらし寿司など、季節を感じられる献立を意識するように心掛けている。ほおば巻き作りでは自分のやれる部分に参加し、楽しみながら作っている。最低、週一回は必ず手作りおやつを提供し、食を通じて季節に応じた暮らしを楽しめる様に努めている。	看護師が食事の献立を作成し栄養面に配慮しています。利用者の出来ることを、役割に応じて食事の準備等に参加しています。食事前のリハビリ体操、口腔体操、高速早口言葉等、職員の元気な声掛けに負けず、大きな声で参加されました。食事が配膳された時には、利用者の皆さんから”わー”の歓声と拍手が上がっていました。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	楽しい雰囲気ですり、食事量を点検し、変化がある時は栄養摂取や水分確保が出来る様、スタッフ間で情報共有し工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	茶がらを煮だした液を常に用意し、食後、就寝前、外出後等、口腔ケアの実施、声掛けを行っている。又本人の状態に応じて職員介助している。		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	一人ひとりの排泄パターンを把握し、全体会議・ユニット会議にて情報共有している。夜間のみポータブルトイレを使用する方もいるが、利用者ごとに時間を決めて声掛け・誘導するなど、トイレ中心の排泄が出来る様に努めている。	現在の排泄支援は、①自立の方②トイレ誘導の方のみです。事業所の方針として、可能な限りトイレでの排泄を行うように、一人ひとりの排泄パターンをアセスメントし、声掛けのタイミングや誘導方法を確認して取り組んでいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	水分補給や食材を工夫している。(手作りヨーグルト、野菜を多く取り入れている。)協力医に状態を説明し、指示を頂いている。自立されている方には2回/日、排便確認をし、可能な限り使用後のトイレの確認等で状況把握に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている。	一番に入りたい人・最後に入りたい人・毎日入りたい人・午後に入りたい人など、本人の希望に沿える様に心掛けている。入浴当日の体調には十分配慮し、安心して入浴を楽しんで頂けるよう努めている。	檜の個人浴槽には、立位が困難な方が浴槽内に入ることができる可動式のイスが取り付けられ、座位姿勢が可能であれば入浴ができる支援を行っています。入浴の時間も職員と一緒に、ゆったり会話を楽しむ時間になるよう心掛けています。(職員ヒアリング)	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	状態に応じて休んでいただけるよう支援している。ソファで休んだり、畳で横になれる環境にしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	本人の状態特変時には主治医に連絡し、指示を受けている。薬の説明書を個別ファイルに綴じ、いつでも確認できるようにしている。薬の変更があった時は、申し送りを徹底している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	その日の状態に合わせて、役割や楽しみを支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	コロナ禍で外出が難しい中、陽気を見て、広い中庭を日光浴がてら散歩したり、長い廊下を皆で歩いたりしている。歩く途中に畳スペースで休憩しながら手足の体操をするなど、筋力低下予防しながら気分転換を図っている。	コロナ禍で計画通りの外出は出来ませんが、体力維持や気分転換のため、散歩が出来る広い中庭の散歩を行っていました。管理者より、今後冬に向けて外部の散歩が難しくなるので、隣接するデイサービスの送迎用の大型車両を使用して、ドライブを計画していきたいという話が聞けました。	感染症の動向を見ながら、施設外への外出等、馴染みの風景や環境から刺激を受けられる、楽しみ事の計画実行を期待いたします。

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	預り金の中から、一人ひとりの希望に応じて支援している。預かっている時は、支払う時は本人に関わってもらおう等、支援している。御家族の方へは月1回報告している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	本人の気持ちを尊重し、支援している。御家族等にも理解していただいている。荷物が届いた時などお礼の電話をかけている。携帯電話を所持し、家族に連絡している方もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	天井は高く、廊下も長く、広い空間設計になっている。リビングにはソファを用意し、サンルームも、季節の草花を見ながらお茶など飲みながら、ゆっくりくつろげる様にテーブルと椅子を置いている。五月人形や雛人形を飾るなど、その時々季節を感じられる様に努めている。	中央にある広いリビングには2つのユニットの利用者が集い、イベント行事や体操等を楽しみます。各ユニットにはあたたかな日差しが差し込むサンルームがあり、友達との会話やお茶会にゆったりした時間をつくっています。木材がふんだんに使われている明るく広い廊下は、利用者が日常的に歩かれる生活リハビリになっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	サンルームの畳、リビングにソファがあり、自由なスペースを確保して自由に団欒している。居室で気の合った仲間同士団欒している。好きな時に自由にお茶をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	家で使っていたテレビや家具を置いたり、写真や位牌を持って来る等、本人と御家族が自分らしい部屋作りをしている。	当日拝見した居室は、家庭のように、その方の暮らし方がイメージできる部屋となっています。ゆったり配置された大きなクライニングチェアに座って、大型テレビで好きな番組を見られている様子が浮かびます。家で使っていた家具や愛用品を持参して、家族も一緒に部屋作りをしていただくようお話しています。(管理者ヒアリング)	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	職員間で情報交換をしながら、その人らしく生活が送れるよう支援している。職員がお手伝いする際、気持ちの関係作りを心がけている。		